

## 平成26年度事業報告書

### 1 平成26年度事業の概要

平成26年度は、公益財団法人に移行して3年目であり、公益目的事業の充実と認定継続のため、事業及び法人業務の取組みを進めた。

公益目的事業においては、地球温暖化対策、生物多様性の確保、良好な生活環境や地域交流、防災等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画及び第1次京（みやこ）のみどり推進プラン等に基づく活動を推進した。都市緑化に関する講習会、自然に親しむ体験活動、希少種の保全に関するネットワークづくり、公園を生かした緑のイベントの開催、宝が池公園周辺の森林環境変化について考える5団体共催のシンポジウム、庭園文化の情報発信等を実施した。

梅小路公園及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理事業については、京都市による指定管理者の公募に応募し両公園とも指定管理者の指定を受けることができた。このうち梅小路公園においては、平成28年春の京都鉄道博物館の開園をにらみ、ますます利用者の増加が見込まれる公園施設間の連絡体制づくりを行った。宝が池公園子どもの楽園においては、特に平日の活動の事業の拡大に努めた。

法人業務に関しては、評議員会を1回、理事会を2回開催した。役員体制は、第4回評議員会において2期目の理事・監事を選任し、新たな理事会が発足した。

財務に関しては、収益面で補助金の減少があったが、各事業の収益及び雑収益が前年度を上回り、経常収益計は前年度を上回った。費用面では、事業量の増加に伴い経常費用の人件費、光熱水費、委託費の増加につながったが、管理費の抑制及び優遇税制の活用等により、当期一般正味財産増減額はプラスとなり、3期連続で黒字経営を保つことができた。

### 2 平成26年度の事業実施状況

※事業項目の「推進プラン事業」は京都市「第1次京（みやこ）のみどり推進プラン」の事業を指す。

**I 公益目的事業**                      決算額 183,477千円   （予算額 182,377千円）

**I-1 都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業**

決算額 158,516千円   （予算額 157,681千円）

うち京都市補助金 決算額 26,334千円（予算額 26,334千円）

京都の都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において、講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。

(1) **緑の学校と人材育成**      <推進プラン事業番号 46-1, 51-1>

緑化に関する各種の講習会を実施し、緑のボランティアリーダー（(6)ウ関連）を育成する「緑の学校」を運営した。

## ア 園芸・造園関係の講習会等

### a 園芸講習会

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

- ・ 講師 協会花と緑の普及員 駒井修
- ・ 受講者 前期 35 人，後期 27 人 ・ 参加者数 9 回計 245 人
- ・ 受講料 前期 3,000 円，後期 4,000 円
- ・ 各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第 1 回	4 月 24 日	鉢植え用土の種類と使い方及び夏野菜の育て方
	第 2 回	5 月 15 日	ハンギングバスケットの種類とその植え付け方法
	第 3 回	6 月 20 日	観葉植物の育て方とハーブの育て方
	第 4 回	7 月 10 日	草花の夏越しと秋咲き草花・夏植え球根の植付け方
後期	第 1 回	9 月 25 日	多肉植物の育て方と多肉植物を用いた鉢植え
	第 2 回	10 月 16 日	カラーリーフプランツの紹介と使い方
	第 3 回	11 月 20 日	秋植え球根と冬咲き草花の寄せ植え
	第 4 回	12 月 18 日	クリスマス飾り（ミニリース）の寄せ植え
	第 5 回	1 月 15 日	冬季に行う土づくりと早春に咲く草花の寄せ植え

(25 年度は計 9 回実施。)

### b 季節を楽しむ園芸教室

園芸で四季を楽しむ単発の教室・講習会・体験コーナーを開いた。

教室名	開催日	講師	受講料	参加人数
サクラソウを育てよう	4 月 18 日	原田弘種（協会）	700 円	9 人
キクタニギクを育てよう	10 月 18 日	藤井肇（緑化リーダー）	300 円	13 人
多肉植物の寄せ植え体験／下京区ふれ愛ひろば（梅小路公園）	11 月 9 日	梅小路公園花と緑のサポーターの会	300 円	11 人
正月の寄せ植え	12 月 21 日	原田弘種（協会）		20 人
梅の剪定ミニ講座	3 月 2 日	野杖勝俊（協会）	無料	30 人
春の寄せ植え教室	3 月 20 日	原田弘種（協会）	2,000 円	18 人

(25 年度は 7 回実施。)

### c 出張園芸講習会等

まちなみ緑化支援（(5)ア）関連の普及活動として、又は行政、地域団体からの協力要請等により、出張して講習会等を実施した。

場所／テーマ	開催日	講師	参加人数	備考
島原のぞみデイサービス（下京区）／夏花への植替え	5 月 13 日	寺田裕美子（協会，園芸療法士）	12 人	まちなみ緑化支援

菊浜連合会(下京区)／六軒橋・正面公園等の緑化(植替え, ワークショップ)	7月1日	駒井修(協会)	30人	まちなみ緑化支援
	10月28日		18人	
	11月18日		20人	
中京区キッチンガーデン講習会(中京区役所)	5月21日	駒井修(協会)	30人	参加者は公募
緑のカーテン講習会(伏見区, 京エコロジーセンター)	7月6日	駒井修(協会)	30人	参加者は公募
花壇づくりについての出張相談(伏見区南部公園)	9月20日	駒井修(協会)	15人	3公園の愛護活動

(25年度は5回実施)

## イ 花壇づくり講習会

公共的な場所での花壇づくりを中心に、設計や植付け等のグループ作業を通じて、グループで行う緑化活動の基本をシリーズで学んだ。

- ・講師 協会花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期13人, 後期12人 ・参加者数(10回及び補講の計)のべ132人
- ・受講料 前期3,000円, 後期2,000円

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	5月22日	一年草主体の花壇の形態・設計手順
	第2回	6月5日	個人のデザインを基にグループで夏～秋花壇の設計
	第3回	6月19日	夏～秋花壇の地ごしらえ・植えつけ
	第4回	7月3日	自然風花壇の形態・設計手順
	第5回	7月24日	個人のデザインを基にグループで秋花壇の設計
	第6回	9月18日	秋花壇の地ごしらえ・植えつけ
後期	第1回	10月9日	コンテナ花壇の形態・設計手順
	第2回	10月30日	グループで冬花壇の設計
	第3回	11月13日	冬花壇の地ごしらえ・植えつけ
	第4回	12月4日	コンテナ花壇の冬花壇 / 修了式

(25年度は前期6回, 後期4回シリーズ。)

## ウ 家庭の庭づくり(ガーデニング)講習会

おもに家庭などでの身近なガーデニング(庭づくり)について、計画の立て方から造成, 植栽, 維持管理, 庭での楽しみ方まで, 講師との対話形式で学んだ。2つの期に同じ内容のシリーズを実施した。

- ・講師 協会花と緑の普及員 野杵勝俊
- I期 ・受講者 15人 ・参加者数6回のべ76人 ・受講料 3,000円
- II期 ・受講者 6人 ・参加者数6回のべ35人 ・受講料 3,000円

回	I期開催日	II期開催日	実施内容
第1回	6月13日	11月14日	家庭の「庭づくり」
第2回	6月27日	11月28日	自宅の庭を考える
第3回	7月11日	12月12日	庭を造って植える

第4回	7月25日	12月19日	庭木の手入れ（剪定）
第5回	8月8日	1月16日	草花の手入れ
第6回	8月22日	1月30日	庭の楽しみ方

（25年度は、年間で12回実施。）

## エ 緑の散策ツアー <推進プラン事業番号 38-2>

広報誌「京のみどり」との連動企画として、市内各地のまちなかの緑のスポットを訪ね歩き、緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりを考えるツアーを行った。26年度は、造園家を招き庭園を中心とする庭めぐりの回数を増やして実施した。

・参加費 1,000円（入園料等別途）

回	開催日	コース／講師	参加者数
第1回	6月29日	山科疏水周辺（東山自然緑地，諸羽神社，毘沙門堂等等）／駒井修・協会普及員	15人
第2回	7月25日	京の庭めぐり 妙心寺退蔵院・大心院・東海庵の各庭園／吉田昌弘（協会理事，ランドスケープコンサルタンツ協会顧問）	32人
第3回	9月5日	京の庭めぐり 二条城庭園（二ノ丸庭園～本丸庭園～清流園）／吉田昌弘，小島俊男（樹木医，小島庭園工務所専務）	41人
第4回	11月16日	吉田山周辺（吉田神社・真如堂・金戒光明寺等）／田端敬三（近畿大学講師），吉田山を美しくする会	20人
第5回	12月18日	京の庭めぐり 本願寺（滴翠園，虎溪の庭）／吉田昌弘，山田豊久（花豊造園専務）	17人
第6回	3月18日	京の庭めぐり 金閣寺庭園／吉田昌弘	18人

（25年度は3回実施）

## (2) 自然環境に関する講習会・体験活動

### ア 体験型講習会，自然観察会等 <推進プラン事業番号 35-3，52-7>

#### a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ，自然の仕組みを理解していただくことを目的として，ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会（森本幸裕代表）いのちの森モニタリンググループ，協会職員等。

#### ① 月例等定期的観察会

- ・参加料 無料（別途いのちの森入園料200円。グリーンフェア時は無料。）
- ・各回の実施内容（計14回・参加者計210人）

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月19日	植物の観察1	10月5日	グリーンフェア観察会
5月3日	グリーンフェア観察会	10月18日	昆虫の観察2
5月17日	植物の観察2	11月15日	植物の観察5
6月16日	きのこの観察	12月20日	植物の講座

7月19日	昆虫の観察 1	1月17日	野鳥の観察
8月16日	植物の観察 3	2月21日	公園植物の観察
9月20日	植物の観察 4	3月21日	植物の観察 6

(25年度は14回実施。)

## ② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

子ども向け自然観察会を24年度からシリーズ化して開催。いのちの森周辺の季節の移り変わり、植物の生長を見守り、収穫して利用する体験を通して自然に親しむ機会をつくった。26年度は田植え体験も初めて実施。

- ・講師 いのちの森モニタリンググループ（田端敬三・北川ちえこほか）、中村源吾（稲作農家）、小谷尚江（協会プレイパークリーダー）
- ・対象 小学生（一般公募、公園周辺小学校・児童館）
- ・受講料 600円（6回分）
- ・各回の実施内容（参加者数 6回のべ137人。保護者除く）

回	開催日	内容
題1回	6月21日	田植え体験ときのこの観察
第2回	7月19日	フジバカマの定植と昆虫の観察
第3回	8月2日	工作体験
第4回	9月13日	フジバカマ飾り
第5回	10月18日	フジバカマの剪定
第6回	11月15日	にほひ袋づくり

(25年度は5回実施。)

## ③ 団体向け観察会（講師・協会普及啓発担当職員）

開催日	団体名	内容	参加人数
2月17日	梅小路小学校（1・2年生）	樹皮の模様を使った絵描き、 種子飛ばし	28人

(25年度は2回実施)

## b 宝が池公園自然あそび教室

自由な遊びを中心とする通常のプレイパーク活動（(7)ウc）とは別に、プレイパークゾーンとその周辺の自然環境を生かし、子どもたちが遊びながら学べる教室を実施。自然観察のほか、クラフト、自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラムを行った。

- ・開催日 原則第1第3土曜日 ・実施回数 計30回（25年度は28回実施）
- ・のべ参加人数 658人
- ・特別プログラム 京都の虫たちの世界をのぞいてみよう（京都工芸繊維大学と共催）、古代の装飾・勾玉をつくろう（（公財）京都市埋蔵文化財研究所協力）、夏休みキャンプ、お茶会体験、簡単炭焼きアート、自然エネルギーをまなぼう 等

## c 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館との共催事業

11月22日、秋の京都御苑で自然あそびを実施するため、講師と補助スタッフを派遣し、みらい館スタッフとともに実施。落葉や木の実探し、簡単な工作等。

- ・講座名 子育てパワーアップ講座「京都御苑で遊ぼう！秋の宝探し」
- ・受講者 幼児（1歳半以上）34人、保護者37人 ・講師 小谷尚江ほか2人

## イ 里山環境を考える学習会、シンポジウム

### a 宝が池連続学習会・セミナー

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに、ナラ枯れ、シカ害等により次世代の植物が育たない危機的な状況にある森の問題を、座学とフィールドワークで多面的に考える連続学習会。

- ・参加費 (6回分) 1000円(一般), 500円(学生)
- ・場 所 京都府立大学, 上高野防災会館等
- ・参加者 6回計97人 公開セミナー38人

回	開催日	内 容／講 師 (敬称略)
第1回	6月14日	生きもの調査①～市民モニタリングを学ぼう／鎌田磨人(徳島大学教授), 齊藤準(京都工芸繊維大学准教授)
第2回	7月13日	生きもの調査②～ナイトウォッチング～／高柳敦(京都大学講師)
第3回	9月13日	MAPづくりをはじめよう／田中和博(京都府立大学教授), 丹羽英之(京都学園大学准教授)
第4回	10月26日	宝ヶ池界隈を巡る, 生物多様性／福井亘(京都府立大学准教授)
第5回	12月21日	冬の森の利用と手入れ～冬の森を楽しもう／柴田昌三(京都大学教授), 長島啓子(京都府立大学助教)
第6回	3月14日	宝が池界隈の歴史からみる森の利用とくらし／吉崎伸(京都市埋蔵文化財研究所)
公開セミナー	7月13日	ナラ枯れ後の森林再生・シカと共生する森づくりを考える～奈良・春日山の事例／前迫ゆり(大阪産業大学教授)

### b 宝が池シンポジウム「いのちにぎわう宝が池公園を未来へ～みんなでとりくもう楽しい森づくり」の開催

当協会と京都府立大学が24,25年度に開催した宝が池周辺の森林のあり方を考えるシンポジウムに、公園管理者である京都市, 国立京都国際会館, 及び京都学園大学が加わり開催した。ディスカッションでは, 次世代に継承すべき森林の将来像や方策を話し合う協議の場づくりの必要性を確認した。

- ・主 催 京都市, 京都府立大学森林科学科, 京都学園大学バイオ環境学部, (公財) 国立京都国際会館, (公財) 京都市都市緑化協会
- ・協 力 京都宝の森をつくる会, (一社) 日本生態学会・生態系管理専門委員会
- ・開催日 平成27年3月21日
- ・会 場 国立京都国際会館
- ・参加者数 202人(事前申込制)
- ・参加費 無料
- ・内容及び登壇者(敬称略)

【主催者あいさつ】木下博夫(京都国際会館館長), 門川大作(京都市長)

【趣旨説明】森本幸裕(京都学園大学教授, 当協会理事長)

【第一部】講演「自然との共生観の中で生まれた日本の文化」上村淳之(日本画家)

【第二部】「今」を知る(発表及びパネルディスカッション)

コーディネーター: 田中和博(京都府立大学教授) / 発表者・パネリスト: 大西功, 柴田昌三, 高柳敦, 長島啓子, 森本幸裕

### 【第三部】未来を語る（パネルディスカッション）

コーディネーター：鎌田磨人（生態学会・徳島大学教授）／パネリスト：岩崎猛彦，上田雄二，大西功，奥井寛之，柴田昌三，高谷淳，長島啓子，野田奏栄

#### c 日本生態学会第7回自然再生講習会の共催

（一社）日本生態学会主催の自然再生講習会が，京都の宝が池・深泥池をフィールドに開かれ，京都府立大学と当協会が共催した。

##### ・講習会概要

9月23日 会場・京都府立大学

テーマ 「京都の里山再生—理念と技術—」 参加者 180人

##### ・エクスカージョン

9月22日 宝が池・深泥池周辺の里山 参加者 40人

9月23日 京都大学フィールド科学教育センター上賀茂試験地 参加者 25人

#### ウ 公園・庭園の樹木と対話する教室

梅小路公園内を歩き，植物名の由来，生活での利用方法，造園コンセプトに基づいた景の見方など季節に合わせた解説を行い，植物や緑の文化に親しんでいただいた。

・開催日 第1金曜日（1月を除く。） ・実施回数 計12回

・講師 野杵勝俊（協会相談員・花と緑の普及員）

・受講者 計125人 ・受講料 無料（庭園に入る場合は別途入園料。）

（25年度は12回実施。）

### (3) 緑の相談所運営

#### ア 相談業務

相談を通じて園芸等の知識を高め，緑化推進を図るため，平成10年度以降，無料の相談業務を行っている。平成23年度，相談所を本部事務所とともに円山公園内に移転したが，25年度以降は梅小路公園緑の館の仮設ブースで行っている。相談内容はデータ化し，一部をホームページと広報誌で公開している。

・相談日 毎週2日（水曜日，土曜日）及びイベント等での出張相談

・時間 午前10時～午後4時まで（面談又は電話による。）

・相談員 原田弘種，野杵勝俊

・実績 相談日数 104日

相談件数（内容別） 914件（うち面談による相談56.6%）

（平成25年度は件数879件，うち面談による相談50.7%）

#### イ 希少植物の保全・普及

市民団体，園芸家，京都放送（KBS京都）等の協力による希少な在来種を含む和花等の展示会（（4）アb）に関連し，希少種保全の活動を継続して進め，すそ野を広げていくため，（公財）国際花と緑博覧会記念協会の助成を受けた25年度に引き続き，ネットワークづくり（和の花展懇談会の開催，KES環境機構との連携等）や普及啓発冊子の制作（（8）イ参照）等に取り組んだ。

##### a 和の花展懇談会

・第3回 7月26日 円山事務所 出席者22人

・第4回 2月20日 円山事務所 出席者20人

- ・内 容 展示会企画，冊子等で採り上げる植物，各団体の活動近況等
  - ・参加者・団体 乙訓の自然を守る会，KBS 京都，特定非営利活動法人葵プロジェクト，桂高校バイオテクノロジー部，園芸家の皆さん等
- b KES 環境機構「京のエコロジカルネットワークプロジェクト」への協力**
- 京都発の環境マネジメントシステム KES に基づく企業・学校等の登録・認証を行う特定非営利活動法人 KES 環境機構が普及を目指す新たな環境 CSR 活動「京のエコロジカルネットワークプロジェクト」への技術的な支援及び企画協力を行った。26 年度は一部地域を対象に募集して試行的にスタートした。（最終的に 18 団体参加）
- ・KES エコロジカルネットワーク事前説明会 7 月 4 日 25 団体参加  
講演「都市における生物多様性」（森本幸裕理事長），「京都市生物多様性プランについて」（京都市環境政策局）ほか。
  - ・栽培講習会 7 月 11 日 13 社参加  
講師 藤井肇，秦賢二（協会緑化リーダー），特定非営利活動法人葵プロジェクト  
フジバカマ又はフタバアオイを鉢植えし，栽培。
- c 京都市「京の生きもの文化協働再生プロジェクト認証制度」に基づく技術指導**
- 同制度の認証を受けた団体に対し，京都市の依頼を受け，技術指導を行った。
- ・京都水族館（下京区）（棚田ゾーンへの希少植物の植栽）11 月 21 日，12 月 22 日
  - ・日新電機（右京区）（生物多様性に配慮した工場緑化）1 月 19 日，3 月 19 日
  - ・プレディオ岡崎（左京区）（敷地への希少植物の植栽）3 月 6 日
- d 施設・環境イベント等での普及啓発活動**
- ・京都駅ビルでの希少植物の展示  
京都駅ビル内の緑化施設「緑水歩廊」で，植物の特性や文化的な背景をパネルで説明し，府絶滅寸前種フジバカマ（9 月 24 日～10 月 4 日），京都府絶滅危惧種キクタニギク（11 月 19～26 日）を展示。
  - ・京都市役所庁舎ロビーでの展示  
みどり政策推進室の協力で和の花保全を訴えるポスター及びキクタニギクを都市緑化月間に展示（10 月 1 日～17 日）
  - ・大阪・長居植物園での和の花の展示及び講演  
大阪市長居植物園を運営する（一財）大阪スポーツみどり財団との相互協力の一環で，長居植物園の施設内で京都の和の花を展示（5 月 3～18 日）するとともに，藤井肇氏（協会緑化リーダー）らの講演を行った。
  - ・「第 8 回生物多様性協働フォーラム」でのポスター出展（12 月 23 日）  
主催・生物多様性協働フォーラム事務局 会場・グランフロント大阪（大阪市）
  - ・「花とみつばちを広げるみつばち市民講座」第 1 回での話題提供（10 月 9 日）  
主催・中京区役所，京都学園大学 会場・同大学京町家キャンパス「新柳居」
- ウ 月刊誌「婦人之友」への寄稿，連載**
- 衣・食・住・家計の生活技術などを伝える明治 41（1908）年創刊の月刊誌「婦人之友」（発行・婦人之友社）から園芸コーナー執筆の依頼を受け，駒井修普及員が，京都の緑の文化や当協会事業の紹介を交え，家庭の軒下や玄関などで気軽にできる花飾りを提案するシリーズの寄稿を行った。
- ・掲載誌 2014 年 5 月号～2015 年 3 月号（平成 26 年 4 月～27 年 2 月発売）
  - ・タイトル「京都 家と街を彩る小さな花緑づくり」

#### (4) 緑のイベントの開催及び支援

##### ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

みどりの月間（4～5月）、都市緑化月間（10月）に、「守ろう！古都の自然」キャンペーンとして、グリーンフェア春／秋、春の和の花展、藤袴と和の花展などの様々なイベントを実施した。

##### a 梅小路公園グリーンフェア 2014 春／秋

爽やかなみどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ、安らぎ、にぎわいを多くの市民に感じていただくために、春と秋の2回実施した。

開催日		天候	来場者数
春	5月 3日（金・祝）	晴時々曇	25,000人
	5月 4日（土・祝）	晴後時々薄曇	30,000人
秋	10月 4日（土）	曇	20,000人
	10月 5日（日）	曇後時々雨	12,000人
計			87,000人

※ 秋は「市民ふれあいステージ」も同時開催。

##### b 春・秋の和の花展

自然保護団体や園芸家の協力により、絶滅危惧種を含む山野草、古典園芸植物等の屋外展示、イベントを行い、身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

##### ① 春の和の花展（第5回）

- ・期間 4月1日～4月20日（18日間） ・会場 梅小路公園朱雀の庭、緑の館
- ・早春の花を展示するため前回に比べ3週間早めた。京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約120種240鉢を展示。
- ・イベント お茶席、ガイドツアー、山野草展示即売会等
- ・入場者数 1,464人

##### ② 藤袴と和の花展（第6回）

京都放送（KBS京都）の「守ろう！藤袴プロジェクト」をきっかけに平成21年度から開催。京都府絶滅寸前種であるフジバカマ220鉢（約1,100株）のほか、京都府レッドリスト掲載の種を含めた山野草等約170種380鉢を展示した。

- ・主催（共催） 緑化協会・（株）京都放送
- ・期間 9月26日から10月5日まで（9日間）
- ・イベント KBS京都ラジオ「久米村直子の SuperDuperSunday」公開生放送、香老舗松栄堂「水尾より届いた藤袴の香り」、渡りの蝶アサギマダラなんでもコーナー（BVアサギマダラの会）、山野草展示即売会、お茶席、和の花展ガイドツアー、キキョウ苗プレゼント、絵本で描かれた藤袴、子どもたちが描く藤袴絵画展、京都駅ビル「緑水歩廊」での藤袴展示（(3)イd参照）等
- ・入場者数 1,386人

##### c 桜まつり in 梅小路

26年4月1日～6日の間、桜並木に紅白幕を張り、イベントを組み合わせ、花見気分を演出した。

##### d 梅まつり in 梅小路

梅小路公園内にある梅林をPRするため、下京区役所と協力し開催。期間中、床几を

置くなどして、ゆっくり鑑賞していただけるよう工夫した。

- ・期 間 26年2月28日～3月8日
- ・イベント 梅茶振舞い・おしるこ販売（3月1日，603人），梅の剪定教室（2日）等

#### e 京都まちとみどり写真コンクール

緑あふれるまちづくりを推進する第30回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。計541点の応募があり，このうち40点が入賞・入選した。入賞・入選作品は，梅小路公園「緑の館」で展示された後，京エコロジーセンター，けいはんな記念公園，京都府庁など府内5か所で巡回展示された。

- ・主催 京都府都市計画協会主催
- ・共催：京都府，京都市，（公財）京都府公園公社，（公財）京都市都市緑化協会，（一社）京都造園建設業協会
- ・表彰式 10月4日（梅小路公園「緑の館」）

#### f 地域イベントへの参加

区民まつり等に市民団体と協会が共同で出展，または出展を支援し，園芸体験コーナーを設ける等の活動を行った。

イベント名	開催日	場 所
堀川・桜まつり	4月13日	堀川河川敷（一条戻橋～押小路橋）
中京区民ふれあいまつり	10月26日	中京中学校グラウンド
下京区ふれ愛ひろば	11月9日	梅小路公園

### イ 「みどり」に関連した教室の開催

#### a 草木染めを使ったパッチワーク教室

草木染め（柿渋，アイ等）の布を使い，「ハワイアンのトートバック」「のぼり旗のミニタペストリー」等を制作した。各期とも午前・午後に約20人ずつが受講。

- ・講師 池田由美子
- ・第1期 開催日 5月29日，6月26日，7月10日，8月21日（のべ224人）
- ・第2期 開催日 9月11日，10月9日，24日，11月27日（のべ205人）
- ・のべ実施回数20回（25年度は30回）

#### b 梅の実採り体験

利用者に愛されている梅林内のウメの実の盗難防止を兼ね，事前に告知を行い，子どもを含め，梅の実採りを体験していただいた。

- ・実施協力 梅小路公園花と緑のサポーターの会
- ・開催日 6月3日 ・参加者数 200人

### (5) まちなか（市街地）緑化事業

#### ア 和花等を生かしたまちなみ緑化 <推進プラン事業番号43-9>

緑視率の向上と町並み修景を図るため，和のイメージを主体とするコンテナ等を街路沿いの狭いスペース等に設置，施設利用者や地域住民に管理していただき，協会が技術的支援等を行った。26年度は新規で1箇所に着手した。

##### ① 島原のぞみデイサービスの沿道（下京区西新屋敷中之町，23年度からの継続）

通りに面した「花矢来」4基，竹の穂ハンギングバスケット6基等の植替え・管理

を指導。園芸療法士による花に親しむ講習会を1回実施。((1)アc参照)

② 菊浜学区「花回廊づくり」(下京区, 24年度から継続)

六軒橋東詰, 高瀬川正面公園のコンテナ計35基, 通りに面した家屋軒下のコンテナ20基の植替え・管理指導。花に親しむ講習会等を3回実施。((1)アc参照)

③ 境谷公園及び周囲の緑化(西京区, 26年度から)

コンテナ花壇を育てる愛護協力会への支援

イ 御池通スポンサー花壇等の地域の緑化の推進

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業(花壇基数102基)で, 沿道の事業者・市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助, ニュース発行, ボランティア募集等の普及啓発を行う業務を受託した。((6)アa参照)

- ・植替え4回, 巡回管理のべ152回(全区間44回相当)
- ・ニュース(スポンサー花壇だより)発行6回, アンケート調査1回
- ・講習会(デザイン検討, 作業安全)開催2回 計56人参加

(6) 緑の団体支援

ア 「京都みどりのサポーター協議会」の運営

各地で緑化を担う緑の活動団体と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営した。

- ・参加団体 梅小路公園花と緑のサポーターの会(岩永忠正代表), 中京・花とみどりの会(西村勇代表), NPO法人地域社会の環境保全と科学技術の振興を目指す会(飯井基彦理事長), 小野芙蓉会(谷中登美行代表), 京都みどりクラブ(久武公一代表)
- ・会長=西村勇, 副会長=岩永忠正

a 御池通スポンサー花壇の沿道「サポーター」への支援

京都市御池通スポンサー花壇事業で, 日常の手入れを担う沿道の事業所等の「サポーター」の活動を補助・支援(点検, 整姿, 病害虫防除等)した。

b 協議会と協力した地域イベントへの出展((4)アf参照)

c 協議会研修

10月25日 兵庫県伊丹市昆陽南公園の苗圃を活用する会, 伊丹市昆虫館等60人参加

イ 緑の活動団体登録制度(ボランティアセンター)の準備

ボランティアベースの緑の活動団体の人材, ニーズに関する情報交換を行い, 技術支援や協働の取組みを推進するためのボランティアセンターは, 公園再整備の影響で場所を再検討することとなった。情報収集は引き続き行い, 試行的に出張相談や余剰資材の提供等を行っている。

ウ 緑の学校の運営と緑化リーダーの認定

前項イの団体登録制度と合わせ, 協働の取組みを進め, 支援の効果を高めるため, 「緑の学校」のカリキュラムを2年以内に修了した人((1)参照), ボランティア指導の実績のある人材等を緑化リーダーとして認定している。26年度末までの認定者数は9人。

## (7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

### ア 梅小路公園指定管理業務等の受託

2期目の指定管理期間の最後の年度に当たり、利用者の利便性向上、安全確保、イベント開催やニュース発行等による利用促進を図った。また、指定管理区域外の七条入口広場、平成26年3月開園のすぎくゆめ広場等の再整備エリア、移設後のチンチン電車の運行は、公園一体として管理する必要から維持管理業務を受託した。

平成28年春の鉄道博物館の開業をにらみ、公園施設管理者が情報交換し、活性化や安全確保のため協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」を開催した。

#### a 梅小路公園・施設管理者連絡会の開催

- ・26年度開催 第1回・7月11日、第2回・10月23日、第3回・1月16日
- ・内 容 各施設の事業予定、管理運営上の課題と相互協力等
- ・構 成 京都市建設局みどり政策推進室・南部みどり管理事務所（梅小路公園設置・管理者）、オリックス水族館（株）（京都水族館）、西日本旅客鉄道（株）京都支社及び（公財）交通文化振興財団（梅小路蒸気機関車館、京都鉄道博物館）、（株）コラボ（グリーンハウスコラボ、梅小路パークカフェ）、（株）京都駅観光デパート（（株）エーゲル（市電カフェ）、（株）立誠社（市電ショップ）、（一財）京都市都市整備公社（駐車場、駐輪場）、及び当協会（梅小路公園指定管理者）
- ・事務局 当協会

#### b 京都・梅小路地区活性化実施検討会（仮称）等への参加

JR西日本及び京都水族館が主体となり、京都駅から梅小路公園周辺までのエリアの企業や団体に呼びかけ、回遊性の向上や賑わいづくりに取り組む検討会を発足した。当協会も公園指定管理者として積極的に参画している。

- ・26年度開催 第1回代表者会議・2月3日、第1回実務担当者会議・3月4日
- ・事業案 経路にモニュメント、看板を設置し誘導、施設充実、イベント開催等
- ・構 成 京都駅から梅小路公園周辺までのエリアの22企業・団体

また、京都市は、公園を含む「京都駅西部エリア」の活性化将来構想を検討中であったが（27年3月策定）、当協会は関連イベントへの協力や資料提供を行った。

#### c 各種イベントの開催、展示会の誘致等

当協会が共催し開催するイベントのほか、地域の団体のイベント等、開催に積極的に協力するイベント等がある。

26年度のおもなイベント（例）は次のとおり。

開催日	イベント名
第1土曜日	梅小路手づくり市（5月、1月を除く。） ※協会との共催事業。
4月13日	錦鯉品評会
5月25日	下京区民グラウンドゴルフ大会（参加者が芝生広場芝刈りを事前実施。）
6月1日	京都市水道局「水道週間の街頭キャンペーン」利き水イベント
6月8日	ライフ・チャレンジザ・ウォーク（京都府レクリエーション協会、（公財）ライフスポーツ財団、当協会の共催）
6月15日	第11回カフェカブパーティーIN京都
6月21日	今日も1日パパパーク（京都市未来まちづくり100人委員会、男性の育児参画イベント）

7月20日	サマーフェスタ 2014 夏の大感謝祭 (JA 京都市)
9月13日	第 18 回梅小路公園ふれあいコンサート (下京少年補導委員会と近隣の学校)
9月28日	リベレーションフェスタ (人権擁護啓発の交流イベント)
10月11日	京都市交通局PRイベント (市バス車両展示等)
10月18日	京都市ほほえみ広場 2014 (障がいのある市民・ない市民の交流イベント)
9月21日	京都音楽博覧会 I N梅小路公園 (第 8 回) (京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力)
10月4～5日	京都文化祭典市民ふれあいステージ(グリーンフェアとの同時開催)
10月25日	京都やんちゃフェスタ 2014
10月26日	京北・森の収穫祭 (京北地域の林業・木材業 PR イベント)
11月1～3日	京野菜フェスティバル (京都府等。旧「九条ねぎ」フェスティバル)
11月10日	下京区ふれ愛ひろば (下京区役所等)
11月30日	第 1 回京都市消防団フェスタ
12月7日	京炎!そでふれ!感謝祭
2月15日	さわやかウォーキング (JR 東海)
3月7～8日	第 6 回京都ツデーウォーク ( (一社) 日本ウォーキング協会)
3月28～29日	梅小路フェス! Do You KYOTO?

#### d 公園利用調査

京都水族館の開業 (23 年 3 月) , ずざく夢広場・市電ひろば等のオープン (26 年 3 月) に続き, 28 年春に京都鉄道博物館が開業することから, 26 年度中の公園利用者数を調査し, 年間数を 460 万人と推計した。

#### イ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

子どもや家族連れが安全・安心に過ごせるよう, 良好な管理及びイベントの充実に努めた。特に親水施設の小さな清掃, 夜間に侵入するシカの糞の除去, プレイパークゾーン法面の侵食の監視, 特定外来生物セアカゴケグモの点検・駆除等の管理を行った。

#### ウ プレイパーク事業

##### a 梅小路公園プレイパーク

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し, 毎月 2 回, 定例の活動を実施した。季節にちなんだプログラムも数多く採り入れた。

- ・活動日 第 2・第 4 土曜日
- ・実施回数 定例活動, 特別企画及びグリーンフェアでの実施 計 27 回  
(25 年度は 27 回)
- ・参加者数 (子ども・保護者) 計 3,280 人 ・あそびのリーダー数 計 382 人

##### b 梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者, または小学生を対象として, 小人数による自然遊び等を行い, 公園を「居場所」として感じていただく「ミニ・プレイパーク」を行った。

- ・活動日 原則火曜日午前または金曜日放課後
- ・実施回数 18 回 (25 年度は 16 回)

- ・参加者数 のべ 964 人

### c 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動は、自然あそび教室（(2)アb）の開催を増やしたことで、雨天中止が多かったため前年度に比べ回数が減った。このほか、季節の特別イベントも開催した。

#### ① 通常プレイパーク 33 回（25 年度 42 回）

- ・活動日 原則日曜日
- ・参加者数 のべ 7,835 人（25 年度 8,291 人）

#### ① 特別イベント

- ・4月20日 こいのぼりペイント 27 人 4月25日～5月6日 こいのぼり掲揚
- ・5月24日 大鬼ごっこ大会 110 人
- ・6月1日 親水空間オープニング企画・ふね作ってうかばせよう 67 組
- ・6月29・30日及び7月5・6日 セタイイベント（短冊飾り付け） 各 150 組
- ・10月12日 昭和 DAY（レトロな昭和の雰囲気遊ぶ 3 世代交流行事）約 1,500 人
- ・11月8日 左京子どもふれあいカーニバル（左京区「人づくり」ネットワーク実行委員会との共催） 約 1,500 人
- ・11月16日 どんぐりまつり（遊びのコーナー全体） 約 1,500 人

#### ② けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に 4 歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に、森の散歩やもの作り等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

- ・開催日 毎月第 2 火曜日、第 2 金曜日（2 クラス）
- ・実施回数 計 21 回（25 年度は 22 回実施）
- ・参加者数 のべ 495 人

## エ 公園ボランティアの運営、連携、支援 <推進プラン事業番号 52-7>

### a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

平成 19 年以降、週 2 回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・会員数 平成 26 年度末現在 44 人
- ・実績 活動回数 121 回、参加人数のべ 1,248 人
- ・他団体との交流 下京ひかり児童館（保育幼児等）との花壇の植付け作業等
- ・「葵プロジェクト」への協力（上賀茂神社境内）  
フタバアオイを学校、企業等が育成保全する「葵畑」周辺の落葉を堆肥化する作業や、畑の拡幅作業を行った。（5月10日、2月28日）。

### b 梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動

レイズドベッドを設置するなどバリアフリーに配慮して協会が改修した通称「セラピーガーデン」で、身体障がい者を含むボランティアが手入れ活動を行っている。また、25 年度から、年間を通じひきこもり青年の社会体験の受け入れを行っている。

- ・指導 協会 協会花と緑の普及員 寺田裕美子（園芸療法士（米国 H T R））
- ・活動日 第 2・第 4 木曜日 計 19 回 のべ 89 人参加

### c 社会体験活動の受入れ

当協会はセラピーガーデン活動などを通じ、公園を緑の中で誰もが交流できる場所として位置付けてきたことから、社会体験活動の受入れを引き続き行った。

#### ① 京都府「職親制度」の認定と希望者の受入れ

社会的ひきこもりの回復期にある青少年が就労の体験ができる京都府「青少年の社会的ひきこもり支援職親事業」に基づく「職親」の認定を受け、26年度から受け入れを始めた。26年度は2人（いずれも約1か月間）。

## ② 総合支援学校の社会体験活動の受入れ

市立白河総合支援学校の生徒の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業を交え、管理活動を行っていただいた。（9月2～4日及び9～11日、計12人）

### d 市電車両の保安全管理ボランティア活動

市電車両（チンチン電車の車両、市電ひろばの車両、及び総合案内所として活用している車両）について、路面電車の保全活動の経験を有する愛好団体である「市電ひろば協会会」及び「日本路面電車同好会関西支部」と覚書を交わし、清掃、点検、簡単な整備、保安全管理のアドバイス等を行っていただいている。また、イベント時に市電に関する写真の展示等の普及啓発にも協力をいただいている。

## オ 青空健康づくりプログラム（ウォーキング教室） <推進プラン事業番号 18-3>

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして、梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を開催。また、大学生・看護専門学校生のボランティアを交え、特別イベントやワークショップも開催した。

- ・講師 健康運動指導士 宮本彩氏
- ・内容 ストレッチ、簡易体力測定、正しい歩き方指導、筋トレ、脳トレ等
- ・季節ごとのテーマ

春～夏（4～7月上旬）	身体をしなやかに、軽やかに動かそう
夏～秋（7月下旬～11月上旬）	めざせ！体力・ウォーキング力アップ （大学生との夏期ワークショップ）
秋～冬（11月下旬～3月）	いろいろなエクササイズを楽しもう （満足度調査）

- ・参加料 無料
- ・開催日 第2・第4火曜日 計24回 のべ1,021人参加（25年度は23回実施。）
- ・夏期ワークショップ（再整備後の新コース等プログラムの改善）2回 のべ25人

## カ 円山公園巡回・案内業務

国の名勝であり市内有数の観光地である円山公園の施設の安全確認、樹木の枯損等の確認、サクラ開花や紅葉の状況等を含む各種の問合せ対応、案内を行う業務を京都市から受託して実施した。

## (8) 広報・出版

### ア 京のみどり（季刊）の発行

市内各地の緑に親しんで歩いていただくためのマップや緑を守り育てる地域・団体の取組みを紹介する特集を継続して掲載している。また、ベランダ園芸講座、園芸相談、プレイパーク等の協会事業、京都市の公園緑地施策等の情報を紹介した。

- ・各号の特集「歩いて感じよう京のみどり」の概要

第71号（夏号） 26年7月発行	「山間地のみどりを訪ねる 近き奥山・花背の里へ」（左京区：①大悲山口～峰定寺、②花背交流の森トレッキングコース、チマキザサ再
---------------------	--

	生プロジェクト等)
第72号(秋号) 26年10月発行	「変わりながらも続く都市のみどり 新たな糺の森を知る」(左京区:下鴨神社・糺の森の樹木, 森の現在・過去・未来, 旧三井家下鴨別邸庭園に残る森の歴史)
第73号(冬号) 26年12月発行	「日本庭園の醍醐味を学ぶみどり 京都, 冬の庭探訪」(右京区:①仁和寺庭園, ②妙心寺塔頭桂春院庭園・大心院庭園, 庭師の技と心)
第74号(春号) 27年3月発行	「梅小路公園~20年のあゆみと現在~」(下京区・南区:開園20周年を迎える梅小路公園の推移, 施設, 季節の花, 運営に携わる人々)

・部数 7,000部

・配布場所・配布先 市政案内所, 区役所・支所, 市立図書館, 公園愛護協力会, 全国の緑化団体等

#### イ 「和の花」保全に関する小冊子の発行

希少になりつつある京都ゆかりの和の花を取り上げ, 特徴や栽培方法を伝える小冊子「和の花を育てる1」(26年3月発行, 国際花と緑の博覧会記念協会助成事業)の続編として, 京都市の冊子「京都市生物多様性プラン推進のために」の後半部に「和の花を育てる2」を掲載した。講習会等で活用している。

- ・内容 (第1章)京都市生物多様性プランの意義, リーディング事業等を紹介  
(第2章)キキョウ, ヒオウギ, キクタニギクの3種を紹介(当協会制作)
- ・発行 京都市環境政策局
- ・体裁 A5版, 32ページ(第2章は15~32頁)
- ・配布引受け部数 1,000部

#### ウ ホームページ, スマートフォンサイトの運営

協会ホームページ(PCサイト), 梅小路公園用スマートフォンサイトを運営し, タイムリーなイベントや京都の緑の文化等の情報提供等に努め, 27年度に行う予定のリニューアルの準備を行った。26年度の年間アクセス件数は過去最高となった。

- ・アクセス件数(Visits) 709,488件(前年度比26.7%増)  
(25年度は559,820件)

※Visits(訪問者数) 30分以内の同一IPをカウントしない実質のアクセス数の指標。

### (9) 調査・情報収集

#### ア 植生調査等

<推進プラン事業番号 52-7>

適切な管理及び情報発信の基礎資料とするため, 京都ビオトープ研究会による梅小路公園いのちの森のモニタリング活動への協力を行った。特定外来生物を含む外来の水生生物の繁殖が問題となっている湿地エリアは, 京都水族館に協力を依頼し, これらの駆除及び他の生物種の同定を行った。いのちの森植生は, 里山問題と同じ推移をたどり常緑広葉樹の繁茂, 草本類の種数の減少, ナラ枯れ被害が生じており, 林床を明るくする択伐及び剪定を行った。明るくなった草地, 湿地には, レフュジア(待避地)として「和の花」を導入して経過を観察した。

また, 宝が池公園子どもの楽園周辺では, 京都府立大学等と協力し, ナラ枯れ被害集中箇所の更新の推移や, シカ食害の影響等の観察を行った。

## イ 「和の花」プロジェクト関連の研究会の開催

京都学園大学との共催で、生物多様性確保のためのエコロジカルネットワークの研究会を開催した。

- ・第1回（4月4日） テーマ「原野植物」  
報告「原野植物とその保全」梅原徹（兵庫県立大学大学院特任教授）ほか  
場所・協会円山事務所 参加者・19人
- ・第2回（6月15日） テーマ「和の花プロジェクトと希少種の生息域外保全」  
報告「絶滅危惧種の生息域外保全」安田直人（環境省希少種保全推進室室長）ほか  
場所・京都学園大学京町家キャンパス「新柳居」 参加者・35人

## I-2 京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 24,961千円（予算額 24,695千円）

うち京都市補助金 決算額 0千円（予算額 0千円）

京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として、庭園の保全管理業務、その中での庭園講座等への活用、及び優れた庭園に関する情報発信等を行った。特に国際発信の取組みとして、青島世界園芸博覧会の日本庭園作庭の技術支援及び京都の庭園文化の紹介を行った。

### ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い、伝統と創生が調和した梅小路公園「朱雀の庭」について、管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに、新しい庭園の活用策としてイベント等を行った。

- ・煎茶道方円流・桜まつり煎茶会（4月4日，5日，240人）
- ・紅葉まつり  
ライトアップした梅小路公園朱雀の庭を延長開園した。期間中、京都水族館も夜間営業を実施し、水族館と朱雀の庭をつなぐ園路に灯籠を設置するなど連携を図った。
- ・期間 11月20日～24日
- ・内容 「朱雀の庭」のライトアップ、延長開園、おしるこ無料配布・甘酒販売等
- ・庭園入場者数 2,676人

### イ 庭園情報の収集・発信 <推進プラン事業番号 37-2>

京都の優れた庭園の情報を収集し、ホームページ・広報誌「京のみどり」等において実際に訪れていただくための発信を行った。

また、造園家を招いて25年度に設置した事業企画委員会において、発信するターゲット、具体的な事業案を検討した。

#### a 「京都発・日本庭園の文化と技術を世界へ発信」事業企画委員会

京都府造園協同組合及び（一社）京都造園建設業協会から派遣された造園家5名（茨木和幸、永井正文、矢田久喜、小島裕史、山田豊久の各委員）、座長（吉田昌弘）及び事務局で構成。

- ・開催実績（計10回）

4月24日（第3回）、5月23日、7月4日、7月23日、8月6日、9月11日、10月16日、11月13日、12月17日、1月23日（第12回）

・事業案の概要

京都の庭園を英語でネット上に発信、情報の受発信ができる窓口の開拓、海外からの旅行者にも造園家が案内できる体制づくり、案内ボランティアの養成 等

ウ 京都庭園文化講座等 <推進プラン事業番号 37-2>

a 京都庭園文化講座

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

・受講料 5,000円 ・受講者 のべ 83人

・各回の実施内容

回	開催日	内 容	講師（敬称略）
第1回	11月26日	日本庭園の歴史	吉田昌弘（当協会理事、ランドスケープコンサルタンツ協会顧問）
第2回	12月10日	日本庭園のデザイン手法	吉田昌弘
第3回	1月14日	南禅院庭園, 金地院庭園, 無鄰菴庭園	吉田昌弘
第4回	1月28日	京都における庭づくり	井上剛宏（造園家・京都府造園協同組合理事長）
第5回	2月4日	渉成園, 東福寺本坊庭園, 龍吟庵庭園	吉田昌弘

（※25年度は6回実施。）

b ガイドボランティア講座及びガイド活動

庭園文化講座の受講者及び公園で活動するボランティア団体のうち希望者を対象に、朱雀の庭・いのちの森のガイドボランティアを養成する講座を実施した（25年度受講者向け2回及び26年度受講者向け3回、のべ22人）。26年度に修了者によるガイド活動を始めた。

・講師 吉田昌弘（ランドスケープコンサルタンツ協会顧問）、協会職員

・内容 朱雀の庭・いのちの森の設計、解説ポイント、話し方研修

・26年度ガイド活動実績 計6回実施

エ 日本庭園の伝統的技術・技能研修 <推進プラン事業番号 36-1>

若手造園技術者を対象に、京都府造園協同組合青年部との共催などにより、26年度は朱雀の庭を活用した講義、見学会から成る伝統的技術・技能の研修を行った。

・東京農業大学 朱雀の庭庭園研修 9月11日 19人

・大阪府立大学 朱雀の庭庭園研修 10月1日 23人

・京都造園高等職業訓練校 朱雀の庭庭園研修（共催事業）11月7日 13人

講師・井上剛宏（職業訓練校校長、京都府造園協同組合理事長）

・造園組合青年部 見学研修（共催事業）11月19日 14人

大徳寺孤蓬庵庭園の見学と講義  
講師・小林正典（小林造園代表取締役）

**オ 青島世界園芸博覧会での情報発信** <推進プラン事業番号 37-2>

京都市のパートナーシティである中国山東省青島市で26年4月25日～10月25日に開かれた2014青島世界園芸博覧会のテーマ区「国際園」に、京都市が「日本京都園」（武田純氏設計）を造園3団体及び当協会との協力で出展した。施工を行う青島市当局を技術的に支援するため、関係団体が25年度、「2014青島世界園芸博覧会京都市技術支援委員会」を設置し、造園技術者の派遣を行った。京都の文化を発信する6月26日からの「京都ウィーク」の開催に合わせ、造園関係者16人、京都市長ら京都市5人、京都いけばな協会11人などが訪中し、ウィークの開幕式に参加した。当協会も京都市が博覧会開催期間中に上映する庭園紹介ビデオの制作等を行った。「日本京都園」は「国際園」の中で最優秀賞に当たる特等賞を受賞した。

**II 公園収益事業**

決算額 87,616 千円 （予算額 73,358 千円）  
うち京都市補助金 決算額 0 円（予算額 0 円）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業、自動販売機飲料販売事業、国立京都迎賓館庭園の保全管理業務の受託等を行い、その収益を公益目的の事業、及び法人業務の財源とした。

**ア 自動販売機飲料販売事業**

公園便益施設として、指定管理受託している2公園のほか市内20公園に自動販売機を設置し、その全収益を公益目的の事業に活用した。

**イ 梅小路公園収益事業（貸室、遊戯用電車等）**

26年3月に新たな路線に移設された遊戯用電車（狭軌1型のチンチン電車）の運行、広軌1型車両を静態展示する新設の市電展示室の管理を行った。（京都市受託事業）

**ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業**

26年4月1日より、消費税率引き上げを受け、利用料金を510円（10円増）に引き上げた。8月の日照時間が平年値の約半分となるなど夏休み期間中の天候が不順だったが、利用実績（台数）は25年度並みの水準を維持した。

**エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業**

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について、内閣府からの受託事業として、管理保全指針に基づき、造園に携わった造園業者とともに、計画的な景観づくりに努めた。

・人材育成研修への活用 計7回のべ178人

造園技術者（京都府造園職業訓練校、京都府造園協同組合青年部）の刈込み・剪定

研修，及び造園系大学学生の池清掃のボランティア作業（京都造形芸術大学，岐阜県立国際園芸アカデミー，東京農業大学，大阪府立大学）

### Ⅲ 法人業務

決算額 5,489 千円 （予算額 6,027 千円）  
うち京都市補助金 決算額 0 円（予算額 0 円）

#### (1) 理事会・評議員会

評議員会を 1 回，理事会を 2 回開催した。役員体制は，第 4 回評議員会において 2 期目の理事・監事を選任し，新たな理事会が発足した。

##### 【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 7 回理事会	26 年 5 月 30 日	平成 25 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第 8 回理事会	27 年 3 月 25 日	平成 27 年度事業計画及び収支予算の件 資金運用規定の執行方針及び計画案の件

##### 【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 4 回評議員会	26 年 6 月 20 日	平成 25 年度収支決算の件 理事選任の件 監事選任の件 評議員選任の件

#### (2) 新たな会計・税務対応

公益目的事業の収支相償の原則，公益目的事業比率の確保等を遵守し，税制優遇措置を活かしながら各事業を執行した。京都市補助金の減額及び廃止を想定し，市補助金に依存しない自立的な法人を目指して，公益認定法人としての会計・税務対応に努めた。

#### (3) 京都市外郭団体中期経営計画の策定

京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン」（平成 23～32 年度）に基づく「実施計画」（24～27 年度）を受け，当協会を含む京都市外郭団体の多くは，京都市外郭団体中期経営計画（計画期間・平成 27～29 年度）を 26 年度中に策定する中で，市の財政的関与及び人的関与を廃止する「自律化」の方向性を明確にするよう求められてきた。当協会は変化が著しい指定管理事業を担うなど，さまざまな社会的要請に対応する事業推進体制づくりを急ぐ必要があることから，27 年度より京都市補助金の受入れ，及び京都市からの常勤役職員の受入れを廃止する「自律化」を同計画に盛り込んだ。

**(4) 京都市監査への対応及びコンプライアンス推進**

京都市監査事務局による平成 25 年度監査の結果のうち、「指摘事項」に至らない意見を付された経理に関する事務処理（自主事業で扱う金銭の領収書，郵券等の取扱い）について，京都市マニュアル類の準用を徹底し，準用できない事務は新たに取扱い要項を定める措置を講じた。

**(5) 計画的な教育及び研修の実施による職員の資質と能力の向上**

各事業で効率的な運営，最大限の顧客満足度の向上を図ることができる職員を養成するため，各分野の外部研修を行った。

- ・派遣回数<sup>のべ</sup>15回 派遣人数<sup>のべ</sup>20人（京都市基本理念，遊具点検，労務・福利厚生，コンプライアンス推進，公園管理実務者会議，全国及び関西地区花と緑の相談所連絡会議，生物多様性認証制度講習等）

（平成 25 年度は派遣回数<sup>のべ</sup>15回，派遣人数<sup>のべ</sup>33人）

## 事業報告の附属明細書について

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。